

D-projectメディア創造力下	到達目標	Lv1: 低学年相当	Lv2: 中学年相当	Lv3: 高学年相当	Lv4: 中学校相当	Lv5: 高等学校相当
A. 課題を設定し解決しようとする力	1. 社会とのつながりを意識した必然性のある課題を設定できる	人や自然との関わりの中で体験したことから課題を発見できる。	地域社会と関わることを通じて課題を発見できる。	社会問題の中から自分に関わりのある課題を発見できる。	社会問題の中から多くの人にとって必然性のある課題を設定できる。	グローバルな視点をもって、多くの人にとって必然性のある課題を設定できる。
	2. 基礎・基本の学習を課題解決に活かせる	文章を読み取ったり、絵や写真から考えたりする学習を活かすことができる。	グラフを含む事典・図書資料で調べたり、身近な人に取材したりする学習を活かすことができる。	アンケート調査の結果を表やグラフで表したり、傾向を解釈する学習を活かすことができる。	独自の調査を含め、情報の収集方法を選んだり、組み合わせたりする学習を活かすことができる。	様々な方法で収集した情報を整理・比較・分析・考察する学習を活かすことができる。
	3. 好奇心・探究心・意欲をもって取り組める	何事にも興味をもって取り組むことができる。	自分が見つけた疑問を、すすんで探究することができる。	課題に対して、相手意識・目的意識を持って主体的に取り組むことができる。	社会生活の中から課題を決め、相手意識・目的意識をもち、主体的に取り組むことができる。	課題解決に向けて自ら計画を立て、相手意識・目的意識を持って主体的に取り組むことができる。
B. 制作物の内容と形式を読み解く力	1. 構成要素の役割を理解できる (印刷物：見出し、本文、写真等 映像作品：動画、音楽、テロップ等)	制作物を見て、複数の要素で構成されていることを理解できる。	制作物を見て、それぞれの構成要素の役割を理解できる。	制作物を見て、構成要素の組み合わせ方が適切か判断できる。	制作物を見て、構成要素を組み合わせることによる効果を理解できる。	制作物を見て、送りがどのようない図で要素を構成したのか理解できる。
	2. 映像を解釈して、言葉や文章にできる (映像：写真、イラスト、動画等)	映像を見て、様子や状況を言葉で表すことができる。	映像の内容を読み取り、言葉や文章で表すことができる。	映像の目的や意図を自分なりに読み取り、言葉や文章で表すことができる。	映像の目的や意図を客観的に読み取り、言葉や文章で表すことができる。	映像の目的や意図を様々な角度から読み取り、言葉や文章で表すことができる。
	3. 制作物の社会的な影響力や意味を理解できる	制作物には、人を感動させる魅力があることを理解できる。	制作物には、正しいものと誤ったものがあることを理解できる。	制作物には、発信側の意図が含まれていることを読み取ることができる。	制作物について、他者と自己の考えを客観的に比較し、評価することができる。	制作物の適切さについて批判的に判断することができる。
C. 表現の内容と手段を吟味する力	1. 柔軟に思考し、表現の内容を企画・発想できる	自分の経験や身近な人から情報を得て、伝えるべき内容を考えることができる。	身近な人や図書資料から得た情報を整理し、伝えるべき内容を考えることができる。	身近な人や統計資料から得た情報を整理・比較し、伝えるべき内容を考えることができる。	様々な情報源から収集した情報を整理・比較して、効果的な情報発信の内容を企画・発想できる。	様々な情報を結びつけ、多面的に分析し、情報発信の内容と方法を企画・発想できる。
	2. 目的に応じて表現手段の選択・組み合わせができる	相手に応じて、絵や写真などの言語以外の情報を加えながら伝えることができる。	相手や目的に応じて、図表や写真などの表現手段を選択することができる。	相手や目的に応じて、図表や写真などの表現手段を意図的に選択することができる。	相手や目的に応じて、多様な表現手段を意図的に組み合わせることができる。	情報の特性を考慮し、相手や目的に応じて、多様な表現手段を意図的に組み合わせることができる。
	3. 根拠をもって映像と言語を関連づけて表現できる	他者が撮影した映像をもとに、自分の経験を言葉にして表現できる。	自分が撮影した映像をもとに、取材した内容を言葉にして表現できる。	自分が撮影し取材した情報を編集し、映像と言語を関連づけて表現できる。	自分が撮影し取材した情報を編集し、明確な根拠に基づき映像と言語を関連づけて表現できる。	映像と言語の特性を考慮して、明確な根拠に基づき効果的に関連づけ、作品を制作できる。
D. 相互作用を生かす力	1. 建設的妥協点を見出しながら議論して他者と協働できる	相手の考え方の良さや共感できる点を相手に伝えることができる。	それぞれの考えの相違点や共通点を認め合いながら、相談することができる。	自他の考えを組み合わせながら、集団としての1つの考えにまとめることができる。	目的を達成するために自他の考えを生かし、集団として合意を形成できる。	目的を達成するために議論する中で互いを高めあいながら、集団として合意を形成できる。
	2. 制作物に対する反応をもとに伝わらなかった失敗から学習できる	相手の表情や態度などから、思ったとおりに伝わらない場合があることを理解できる。	相手の反応を受けて、どのように伝えればよかったか理解できる。	相手の反応を受けて、次の活動にどのように活かそうかと具体案を考えることができる。	相手の反応から、映像や言語における文法を身につける必要性を理解できる。	相手の反応から、文化や価値観を踏まえた表現の必要性を理解できる。
	3. 他者との関わりから自己を見つめ学んだことを評価できる	他者との関わり方を振り返り、感想を持つことができる。	他者との関わりを振り返り、相手の考え方や受けとめ方などについて、感想を持つことができる。	他者との関わりを振り返り、自己の改善点を見つめ直すことができる。	他者との関わりを振り返り、自分の関わり方を評価し、適宜改善することができる。	他者との関わり方を振り返り、自分の個性を活かすために自己評価できる。